＜巻 頭 言＞

平成21年の年頭にあたって

吉　越　　洋*

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり，会員ご一同様の益々のご活躍と，当会の発展を祈念申し上げます。

昨年は，５月に中国で汶川地震が発生し，６月には岩手・宮城内陸地震が発生しましたが，震源地近傍にあったダムにいずれもさしたる被害はないと報ぜられ，安堵いたしました。一方，アメリカ発の金融破綻・破綻は，世界中にその影響を及ぼしており，本年はその悪影響が一層顕著に現れるのではないかと懸念されます。また，原油はじめ資源の価格は，投機資金の流入・流出により，７月中旬には１バレル140ドル強まで跳ね上がった原油価格が，その後１バレル50ドルを切るまで急低下するなど，極めて不安定な動きを示しております。このような視界不良で経済の先行き不安感が増す由々しき環境の中で新年を迎えることとなりました。

さて，当会の昨年の活動を振り返ってみますと，６月にブルガリアのソフィアにおいて国際大ダム会議第76回年次例会が開催され，日本からは63名という多くの方々に参加していただき，参加者皆様の技術委員会での討議，アジアパシフィック地域理事会での意見交換及びシンポジウムへの論文発表などにより，国際会議に対する日本の積極姿勢を示すことができたと思っております。改めて会員の皆様のご協力に感謝いたします。また，同年次例会の総会において，2012年大会開催地としての招致意向表明を行いました。映像資料をご提供下さった関係各機関ならびにプレゼンテーション資料の作成及び各国への配布にご尽力頂いた本会関係者の皆様方に厚く御礼申し上げる次第です。同総会においては，地球温暖化に対する世界的な関心を反映して「気候変動とダム，貯水池と関連水資源」という新委員会が誕生し，これを受けてJCOLD技術委員会内に「地球気候変動とダム分科会」を設置いたしました。

10月には，「環境とダムの共存に関する国際シンポジウム」に併せて，日本，中国，韓国３国の大ダム会議共催による「第５回東アジア地域ダム会議」を開催いたしました。この国際シンポジウムは，海外から約60名，日本から約200名という大勢の方々にご参加いただき，ポストツアーを含めて大変ご好評を得，成功裏に閉幕いたしました。会議の準備，運営に際してご苦労頂きました本会関係者の皆様方に，重ねて厚く御礼申し上げます。

* ㈳日本大ダム会議 会長（東京電力㈱ 顧問）

11月には，国際大ダム会議の本部のあるパリで，創立80周年を祝う記念式典とこれに引き続き，ユネスコ本部において「水とエネルギーに関するシンポジウム」が開催され，日本からはJCOLD代表として会長吉越と副会長橋本が，また常務理事松本がICOLD副総裁として出席いたしました。なお，内容については本誌別稿をご参照下さい。また，国際大ダム会議の生い立ちや歴史については，昨年の本誌10月号に「ICOLDをめぐる動き（第4報）」と題して松本ICOLD副総裁がご紹介しています。

さて，本年は5月にブラジリアにおいて，国際大ダム会議第77回年次例会及び第23回大会が開催される予定であり，総会においては2012年の開催地が選挙により決定されます。また，大会においては15編の論文が，日本から投稿されております。本会の重点事業の一つである国際技術交流の点から，昨年同様に，多くの方々に技術委員会，シンポジウム及び大会に出席していただき，日本からの情報発信あるいは海外の技術情報の収集をお願いしたいと思っております。

また，ご高承のとおり10月には韓国が主催国として，第6回東アジア地域ダム会議がソウルで開催される予定であります。会議のトピックは，1．気候変動がダムに与える影響，2．ダムの建設，運用及び維持管理における新しいパラダイムであります。多くの方々の論文投稿並びにご参加をお願い申し上げます。

本年におきましても，会務の具体的運営にあたっては，執行部，事務局幹部の皆様と協議・調整を密にして，遺漏なきを期したいと考えております。会員各位のご指導とご協力を改めてお願い申し上げ，年頭のご挨拶といたします。